

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、第三者評価の資料となります。第三者評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、第三者評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 那珂の郷 グリーンヴィラ那珂
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	兵庫県 多可郡 多可町 中区 牧野 166-9-1
記入者名 (管理者)	宝来 悦子
記入日	平成 21年 11月 6日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は第三者評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	法人の理念をもとにグリーンヴィラ那珂独自の理念を作っている	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	実践の目標として理念の理解に努め手元に置き、ミーティング時に唱和し日々の業務に生かせるよう努力している	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	入所時また来所時に家族に説明し理解してもらえよう努めている。地域の人には伝える機会を出来るだけ多く作って理解してもらいたいと思っている	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	民家と離れたいるため日常的に交流できる人は限られているが、近所の施設の庭を利用させてもらったり、利用者が立ち寄られたら声かけをおねがいしたり、犬の散歩で声かけ、花を見せてもらったり、栗を拾わせてもらったりと交流している	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の行事に参加させてもらったり、また訪問してもらい大正琴、舞踊を見せてもらったり交流している。地元のさつまいも堀に参加。小学校の運動会にも招待を受けて見学に行った。地元の高校生とも定期的に交流している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	スタッフがキャラバンメイトで2回の勉強会を行い地域の人の認知症の人の理解を広めた。また高齢者の家族の相談にもアドバイスしている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価、自己評価をもとに全員で話し合い事例を通して考えた。出来ていないところ良かったところなど意見を出してこれからのサービス向上に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議においてGHの現状報告を行い、感想や意見を取り入れサービスの向上につなげるようにした。また地域住民の認知症介護体験をとおしてサービスの見直しを行い地域への働きかけの方法などを考えて二ヵ月に一回行っていきたい。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	わからないことや疑問に思うことは運営者、管理者、ケアマネが福祉課に相談し指導してもらいサービスの向上に努めている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	毎月のミーティングで勉強会を行って制度は理解している		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルに沿った自己チェックリストなどを用いて勉強会を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者宅を訪問し生活環境を把握しまた来訪してもらいホームの様子も見てもらいながら数回の面談の上、家族の思いも十分に聞いて納得の上で契約している。また解約時も十分な話し合いの上本人家族の意向をもとにすすめている</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎日の生活の中でコミュニケーションをとり苦情不満を聞けるよう心がけて、スタッフ間で話し合いケアの改善を図っている</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時、毎月のお便りで行事や暮らしぶりを報告している。健康状態については、ケアマネが受診時同行し医師から説明を受けそれに合わせたケアプランをたて家族に報告している</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に説明し何でも話しやすい環境作り、気軽に意見を言ってもらえるよう働きかけまた要望箱も設置している</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフが何でも言えるような環境を作っている。問題点について全員で考え改善している。そのため活発な意見が出ている</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>新しい入所者様の入所時は職員の増員を行い、安心安全に配慮している。必要に応じてスタッフで話し合い勤務の調整をしている</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職を最小限にするため運営者は職員の健康、家庭状況を把握し話し合う場を設けている。勤務体制も個々に合わせて考慮している。変わる場合は利用者に合わせて対応をしている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人に対しては認知症の基本を指導してる。他の職員については経験、資格などを考慮して法人外研修を受ける機会を設けている。法人内でも勉強会を実施し業務の中で生かせるようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は地域の同業者と交流し情報交換しサービスの向上に努めている。ケアマネは定期的に連絡会に出席し情報交換している</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は職員と話す機会を多くとり、健康状態、家庭状況を把握して相談にもものっている。職員の慰労の場も設けている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>研修への積極的参加を促している。職員が意見を言えるよう声かけをし管理者、ケアマネの報告を密にしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談を受けた時から本人とじっくり話し合い困っていること不安な事、どうしたいかを時間をかけて受け止めて、安心してもらえるように努める。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族等の話に傾聴しこれまでの介護にたいしてねぎらいの気持ちを持って対応している。先の見えない不安に対して一緒に考えていき信頼関係を築くように努力している</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を十分に聞いて何が必要なのか一緒に考え、他のサービス方法も話して、一番良いと思う方法を選んでもらう		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前本人、家族と自宅や施設で面談を行い十分話をしてその人の思いを知るようにしている。訪問時職員や他の利用者と一緒にお茶や食事をして頂き雰囲気を感じてもらう		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩、目上の人として常に教えてもらい、相談するを基本としているんな場面を通じて、体験経験について話してもらい喜怒哀楽を共にし支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを十分に聞き、利用者にとって家族のかかわりが一番大切であることを説明をし通院行事等の参加、電話対応などをお願いして一緒に本人を支えていく関係を築いている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族の関係を考慮した利用者様の話の中から思いを知り家族に伝えてきた。また家族の思いを機会をみて伝えたり、よい関係が保てるようにしている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望される所、近くであれば個別外出で出かけたり、家族に希望を伝えて墓参り、馴染みの美容院、食事など行かれている。家族が利用者の友達を連れて来られてお茶、食事をされたり訪問しやすい雰囲気を作っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は見守り、口を出さないで様子を見ているが利用者同士教えあったり、他者の居室に遊びに行かれたり、廊下で2人3人話しをされたり時間のかかる利用者には手伝ってあげたりされている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設の特養へ行かれる入所者様も多く、利用者・家族との関係を継続させている。特養から、いつでも、GHに遊びに来ていただいたり、GH職員が訪問することで関係を維持している。また、他施設へ行かれた方においても、訪問をしたり、家族と連絡を取り合いながら、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、本人が、生活への希望や意向を表出しやすい環境づくりを第一としている。その上で、コミュニケーションを通しながら、本人の望む暮らしを明確化し、カンファレンスで話し合いなどを行っている。困難な場合には、その方の生活歴や生活などを十分に踏まえた上でスタッフ間や、家族を交えた、本人本位の望む暮らしの検討		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談時から、センター方式を利用し、本人の生活歴や今までの経緯についての把握を行っている。本人・家族はもちろんのこと、サービス事業所や本人を知る方(近所の人など)にも可能な範囲で情報を頂いている。そうすることで、利用者の全人的理解に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人その人が、自分の持つ生活の流れを持たれていることをスタッフが把握できている。利用者の残された力を発揮できるように、できる部分・出来ない部分を理解することで、個別の生活支援を行っている。また、BPSDのある場合でも、その症状だけにとらわれず、一日の流れを通し、背景を考えながら原因を把握しケアにつなげている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、その人らしい計画となるよう、本人の性格・生活歴・趣味など、いろんな観点から、その人らしい生活ができるよう関係者で話し合いを行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に応じ、スタッフカンファレンスを行ったり、家族に相談を持ちかけたりしながら、介護計画の見直しを行っている。認知症疾患センターの協力が必要な場合は、認知症疾患センター受診を促し、適切なケアの助言や内服の調整なども行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を通し、ケアのヒントになることがあれば、カンファレンスにつなげ、介護計画の見直しに役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今年度より、医療連携体制加算を開始し、日常的に健康管理を行うことで、異常の早期発見・早期受診の支援を行っている。早い時期に対応することで、利用者が重度化することを回避するようにしている。また、入院することになった場合でも、早期退院に向けての支援を積極的に行うことで、利用者の負担の軽減に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校行事への参加や高校生への訪問など地域の子供たちとかかわる機会づくりを行っている。また、ボランティアの方々による訪問や、食事作りの手伝いなどにも来ていただき、地域とつながる機会も持ってもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理美容サービスの利用、多施設への訪問など行っている。また、併設の特養の喫茶店やデイサービス利用を日常的に行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケアマネが、地域包括支援センターに随時、利用者についての相談を持ちかけている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで利用されていた病院に継続的に通院されている。また、定期的に、看護師による受診介助により、Drと連携を行っている。受診内容については、家族、スタッフに伝達し、今後の対応や注意点などを確認し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入社時に説明し誓約書をもっている。常に目上として接するように心がけている。ミーティング時、気がついたとき、話し合うようにしている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個人の思いを聞きだせるように十分コミュニケーションをとっている。その人に合わせた問いかけをして決めてもらっている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の行事、予定などは知らせてその中から選んでもらっている、希望に添えないこともあるが少し待ってもらい時間を作り希望に添えるようにしている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧品クリームなどもなくなれば家族に連絡し自分の好みのものを使用されている。美容院へは家族と行かれる方もあるが理容師さんに来てもらっている。髪の毛の長さや毛染めなど自分の好みにされている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	柏餅、おはぎ、など季節のものも取り入れまた食べたいものをかんで利用者や職員と一緒に作っている。お好み焼き焼きそば等準備して任ずるものもある。かたづけも時間のかかる人には手伝ってあげたりと助け合っておられる	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ビール、コーヒー、たばこ、個別のお菓子等各人好きなものを楽しんでもらっている。おやつなど利用者、職員に分けてくださったりもされている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンを把握して気持ちよく生活できるようトイレに誘う時も周りの人にわからないよう言葉を考えている。拒否される人には無理じいすることなく待つようになっている。また手近にパットを置いて自分で替えてもらったり、一人ひとりに合わせている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1人で入浴できる人は希望の日に入浴してもらっているが、介助の必要な人にはシフト上幅を持たせて、そのなかから希望をきいたりタイミングに合わせて行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の寝るという気持ちをたいせつにし昼は活動を基本としているが、自由に休んでもらい、夜は自ら寝ると言われるまで話をしたりして気持ちよく眠れるようにしている。		
よる				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴に合わせて出来そうなことからお願いしている。包丁研ぎ、植木の剪定新聞をまとめて出す係。買い物、掃除洗濯、調理など得意の分野でされている。利用者同士で教えたり助け合っている。隣のディとゲーム、カラオケ、音楽療法等行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は利用者にとって大切なことであると理解している。利用者が自分でお金を管理され店で買われる方、家族からお金を預かり、好きなものを選んでもらい支払いされる方もある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣の特養の喫茶店に定期的に行ったり天気の良い日は戸外でお茶や食事をしている。外に行きたいと希望されたときは出来るだけ合わせ季節に感じてもらえるよう、花、山菜、クリ拾い紅葉刈などに出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	初めての試みとしてバス旅行を行った。海、船、等見て喜ばれた。今日はどこか連れて行ってと言われる時は出来るだけ希望に沿う様になっている。思い出の場所などは家族と相談して行ってもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけてもらっている。また番号が分かりにくい利用者には一緒に番号をまわしている。またこちらから電話をかけ近状報告した後利用者に代わったりして家族と話が出る機会をつくっている。はがきは一緒に投函するようにしている。それによって配達時は郵便受けまで取りに行ってくれる		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面接時間は決めていない。応接間、居室、和室、屋外のベンチなど自由に使って頂き一緒にお茶、食事をとっていただいたりして居心地良く過ごすよう工夫している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	講習に参加したり法人内でも勉強会を行っている。事例を通して疑問に思ったときは話し合いをして正しく理解するようにしている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者への鍵をかけることの弊害を理解しており影響を考えて昼間は鍵をかけていない。自由に外に出ておられる。さりげなく見守りし行かれそうな所をお願いして(奥さんが入院していると思っておられるので)居られないことを言うてもらう。そして迎えに行った時偶然を装い対処している		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者さんの居場所状態を把握している。小さな変化も見逃さないよう気をつけいつもと違うようであれば申し送りをし継続した観察をしている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者に合わせて選定用ノコギリ、はさみ、カッターナイフ、顔そりカミソリなど持っておられるが使用されるときは職員もそばにいて手伝うようにしている。また喫煙場所、ライター保管場所を決め、喫煙されて、職員がライターの確認している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ミーティング時ヒヤリハットを中心に話し合う機会を設けている。利用者に応じた危険に対する予防を考え事故防止に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成しそれにそった勉強を定期的に行っている。看護師より応急手当、初期対応の仕方を教わっている。日頃から利用者の様子をよく見て小さい変化にも気をつけている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は年2回消防署の指導のもと行っている。緊急連絡網で自動的に電話がかかり救助に来てもらえるようにしている。また避難場所も確認している。地元消防団にも協力を要請している		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所前面談時安全に配慮しながらも本人の思いを尊重していくこと。それに伴うリスクがあることを十分説明している。状況の変化に伴うリスクについてもそのつど説明対応を考えている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃と比べて少しでも変化を感じた場合看護師に連絡し対応を尋ねて継続して様子を見ている。状況に応じて家族と相談し、早期に受診対応を心掛けている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理票により用法、用量、副作用の共有を図っている。内服投与は服薬確認票に押印して手渡し飲み込服用まで確認している		
75	— 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事、水分を基本とし体操、マッサージ腹部温あんぽうを行って最小限の薬で済むように工夫している。水分摂取も常にチェックし便秘の及ぼす影響も話し合っている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	定期的に歯科検診を受けその人に合った歯にしてもらい口腔ケアの仕方も教えてもらった。自分で出来る人には声かけ、無理な人には一緒に行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量チェック表を作成している。食事は特養の栄養士に指導してもらっている。水分は各人必要量を設定し摂取量の少ない人にはこまめな工夫をしている。体重チェックも行っている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいを基本としている。感染症マニュアルを作成し手元に置いてすぐ見ることが出来るようにしている。流行期や健康福祉課から連絡が入ってくると関連した勉強会を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	料理器具は熱湯消毒、温風乾燥を行っている。食材は2日に1回くらい買い物に行き、購入後はすぐに冷蔵庫に入れ新鮮なものを使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに鉢植え、手作りの藤かごを置いたり横に畑、植木があり親しみやすい雰囲気作りをしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは照明は明るすぎないよう柔らかな光にし、家具も木製の温かみのある物を使用し、配置に工夫し手すり代わりになるようにしている。季節の花を一緒に取りにいて飾ったり、季節感のある物を置いている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペース、テーブルも大小、ソファも要所に置いてコーナー作りをしている。一人で本を読まれたり、鉢植えの場所で話をされたり女性ばかり集まったり、思い思いの場所で過ごされている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の使いなれた、タンスや鏡台、また馴染みの物を持ってきてもらっている。仏壇を持ってこれ朝拝んでおられたり、表彰された品物を飾ってはその話をされる方などある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の状況にあわせ窓を開け換気、し温度調節は出来るだけ自然に近いようにしている。冬は居室、廊下、トイレの温度差が少ないよう工夫している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体能力に応じ、畳を取り入れ床座、椅子の生活ができるようにし居室もベッド、床寝など家庭に近い生活がおくれるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所がわからない人のため表示したり、居室の入口や杖など持ち物に目印になるものをつけてわかるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花や植木のそばにベンチやテーブルを置き一年を通じて気持ちよく過ごせる場所がある。建物の横に畑があり花を植えたり野菜を収穫してもらっている。ベランダは各自自由に洗濯物、布団を干されたり鉢植えを育てておられる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

周りを木々に囲まれ、自然豊かな場所にあります。
 利用者様の個性を尊重し、家庭的な雰囲気の中で何でも話しやすく一人ひとりのペースを大切にゆったり落ち着いた生活を支援させていただいています。
 また一緒に生活するという思いを大切にしています。